



東京赤坂ロータリークラブ週報 Weekly Report

2013~2014年度クラブテーマ
会長 西澤 民夫

「みんなで参加、心地よいチャレンジを！」
Join Together with Good Challenge!

●本日の例会/ 2014年 5月 23日 第1302回

卓話：「東京スカイツリーよもやま話」
株式会社 日建設計
東北支社 社長代理 有田幸生 氏

●前回報告／2014年 5月 16日 第1301回例会

卓話：「次の夢への一歩」
夢を追う男 阿部 雅龍 氏



紹介者：村山会員

社会奉仕委員会：(橋本委員長)

次年度社会奉仕委員会が実施する東北震災復興支援の内容が決まりましたのでご報告致します。フランスのアンティーブRCから震災で苦しんでいる福島の子供たちをフランスアンティーブに招待したい旨の申出がありました。福島グローバルRCでは国際交流・異文化理解を主な目的に、福島の子供たちに明るい未来の夢を育てる機会と受け止め進める事と致しましたが、一クラブでは負担の関係もあり東京赤坂RCと東京愛宕RCとの合同プロジェクトの要請が有りました。当クラブでは石井年度の復興支援活動として先の理事会で進める決議を致しました。費用は東京赤坂ロータリークラブ負担は190,000円です、他の費用内訳は東京愛宕RC 100,000円・地区補助金 500,000円・他の経費は福島グローバルRC・フランスアンティーブRCが負担致します。参加人数は3名で2014年8月に渡航予定です。

公共イメージ委員会：(関リーダー)

5/13(火)にクラブHP作成懇談会に出席しました。テクニカルな内容の説明がほとんどでした。説明後は、グループにわかれて意見交換を行いました。その中で、Facebookで効果をあげているクラブからのお話があり、今後は当クラブもSNSなどのソーシャルネットワークも視野にいれて考えていきたいと思いました。

出席報告：会員 39名／出席 23名 欠席 16名

ゲスト：阿部雅龍(卓話)、西岡一隆

ビジター：大西紀男(東京南RC)、星井進(東京南RC)
(計4名 順不同・敬称略)

東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1193 / 2014.05.23

例会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

<http://www.akasakarotary.com/>

幹事報告

- ① 5月よりクールビスです。5月例会より、NOネクタイ可です。
- ② 持ち回り理事会により、ロータリー財団ポリオ寄付として1,000ドルをクラブより行う事になりました。
- ③ 6月6日(金)は移動例会です。場所は国際文化会館、時間はいつも通り12:30~13:30です。皆様、ご出席ください。なお、出欠をとっておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

5月 16日(金) / 13件 21,000円

累計 1,084,000円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

大西紀男(東京南RC) / 高須さんはじめ久しぶりにお目にかかりましたので。西澤民夫/阿部様、本日は楽しみにしています。田村昭二/爽やかな天気で今日は半袖で来ました。石井さんニコニコご苦労様です。村山公士/夢を追う男、阿部雅龍さん、本日の卓話よろしくお願ひします。楽しみです。小林博茂/今年は冷夏だそうです。竜巻、豪雨が無いといいです。清水寛/橋本さん、岩上さん先週の私共のコンサートに来ていただき、ありがとうございました。唯今、集中して練習していたので放心状態。河邊幸夫/火曜会からの夜のパトロールお付き合いありがとうございました。石井さんニコニコお疲れ様です。土屋東一/石井さんニコニコご苦労さまです。石井達/阿部さんの卓話楽しみにしております。

お知らせ

元会員 小瀧雅亮氏(医療法人社団 赤坂記念小瀧会 メディカルスクエア赤坂院長)が、5月17日(土)午後5時45分、84歳にて逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。なお通夜並びに葬儀告別式は次の通りです。

日時：通夜 5月23日(金)午後6時～7時
葬儀・告別式 5月24日(土)午後2時～3時

場所：青山葬儀所
港区南青山2丁目33番20号
TEL: 03-3401-3214

●次回予告/ 2014年 5月 30日 第1303例会

卓話予定：「ゴルフの道一筋50年」
～三ゴの趣味に生かされて～

株式会社桜ゴルフ 代表取締役 佐川 八重子 氏

ロータリー衛星クラブ

今月の「Global Outlook」のテーマは会員増強。右肩上がりで、「減少」という言葉を知らなかった日本のロータリーの会員が減り始めたのが、1996年。この年の11月にピークを迎えた日本の会員数が、その後、減少を続けています。

この会員減少ですが、日本だけの問題ではなく、国際ロータリー（R I）全体の問題になっているようだ。「Global Outlook」には、「ポリオ撲滅後は、会員増強が最優先課題になるでしょう」と書かれています。ロン D. バートン R I 会長は、「現状に満足しているクラブの場合はどうしますか?」という質問に、「新しい感覚の新クラブをつくることです」と答えています。そして、朝食例会のクラブをつくり、木曜の昼食時に例会を開催している自分たちのクラブに参加できない人たちに連絡した、と紹介しています。

新しい視点のクラブとして、2011年7月1日から、会員に多様性をもたらすことを目的として、4つの試験的プログラムがスタートしました。それが、「Global Outlook」にもある「衛星クラブ」「準会員」「法人会員」「革新性と柔軟性のあるクラブ」の4つです。それぞれの説明は、本号の「Global Outlook」または、『友』誌2011年3月号の「エバンストン便り」をご覧いただきたいと思いますが、これらの試験的プログラムは、2016-17年度まで続けられます。

ところで、2013年規定審議会で「ロータリー衛星クラブ」に関しての立法案が採択されました。ここで採択され、『手続要覧』に掲載されている「ロータリー衛星クラブ」と、先ほどの試験的プログラムの「衛星クラブ」は、どのように違うのでしょうか。

試験的プログラムの「衛星クラブ」の説明には、「クラブが1週間のあいだに異なる場所、曜日、時間に、複数回の例会を行うことを認め、その影響を調べるものです。衛星クラブのロータリアンは、親クラブに所属し、異なる時間や場所で例会を実施することができます。遠隔地や大都市での効果が期待されるこのプログラムは、小規模なクラブ、弱体クラブ、問題のあるクラブに、活力のあるクラブの下で、指導や支援を提供するものとなります」（『友』誌2011年3月号横組みP42）と書かれていました。

一方、『2013年手続要覧』には、「ロータリー衛

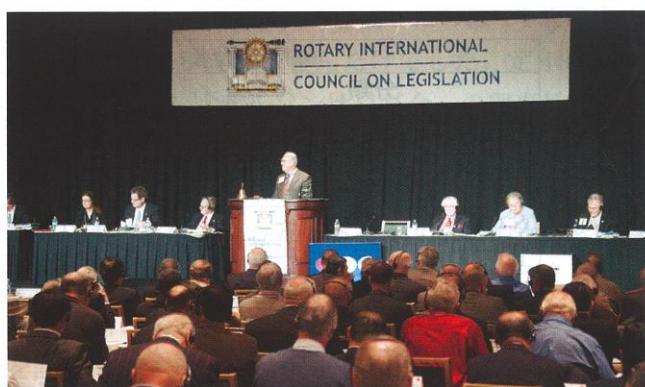
星クラブは、いわば『クラブの中のクラブ』である。衛星クラブの会員は、そのスポンサークラブの会員でもある。衛星クラブは、スポンサークラブとは別に例会を開くが、通常のロータリークラブの規則に則って運営されなければならない。本要覧で言及されるロータリークラブには、特記されない限り、ロータリー衛星クラブも含まれる」（P 4）とあります。

しかし、これだけではその違いがよくわかりません。R I から発信された「『衛星クラブ』試験的プログラムに参加しているクラブの皆さまへ」という文章には、それらの違いについて、「本プログラムが試験しているのは、ロータリークラブが複数の時と場所で例会を行うことです。それに対し、規定審議会が承認したのは、ロータリークラブが、個別の衛星クラブを提唱することであり、この衛星クラブは、独立したクラブとなるまでの暫定的な形態です」と書かれています。

新クラブを創立するためには、最低20人の会員を集めなければいけません。それだけの人数を集めのに時間がかかる場合、ロータリー衛星クラブとして準備を進めることができるとのう。また、ロータリーの精神や規則、プロジェクトのあり方などを、新しいクラブの会員にしっかりと伝授したいという場合も、ロータリー衛星クラブとして、しばらく面倒を見ることができるでしょう。

新しいクラブを創設して多様性に富んだロータリーを実現する場合でも、これまで脈々と受け継がれてきたロータリーをそれらの会員に知ってもらうために、昨年の規定審議会で採択されたロータリー衛星クラブが、役割を果たすことができるかもしれません。

『友』編集長 二神 典子



2013年規定審議会